

令和6年度 ふるさと秋田農林水産大賞

受賞者の業績



令和7年3月
秋田県農林水産部

目 次

1	ふるさと秋田農林水産大賞の概要	2
2	令和6年度ふるさと秋田農林水産大賞受賞者	4
3	受賞者の業績	
	【産地部門】	
	大賞 北秋田・大館地域にんにく生産振興協議会（北秋田市、大館市）	9
	【担い手部門】	
	～ 経営体の部 ～	
	農林水産大臣賞・大賞 農事組合法人 小出ファーム（にかほ市）	13
	大賞 沼沢 淳（横手市）	17
	～ 未来を切り拓く新規就農の部 ～	
	大賞 島 知範（能代市）	21
	【農山漁村活性化部門】	
	農林水産大臣賞・大賞 大沢郷三地区結々会（大仙市）	24
	令和6年度ふるさと秋田農林水産大賞審査委員会 委員名簿	28

1 ふるさと秋田農林水産大賞の概要

■ふるさと秋田農林水産大賞の目的

先人が作り上げた美田や農産物、豊富な森林資源などを次の世代に受け継いでいくため、「ふるさと秋田農林水産ビジョン」の目指す姿の実現に向けて、模範となる活動を展開し、顕著な実績を上げている農林漁業者等を表彰するとともに、その取組を広く普及し、魅力ある農林水産業と農山漁村づくりを推進する。

■各部門の表彰対象

表 彰 部 門	表 彰 対 象
1 産地部門	産地の特徴を活かし、積極的な産地拡大に取り組む生産者で組織する集団
2 担い手部門	
(1) 経営体の部	農業・漁業経営で優良な実績を上げ、地域のモデルとなる個人や法人等
(2) 未来を切り拓く 新規就農の部	地域の担い手として、活躍が見込まれる新規就農者や農外からの参入者等
3 農山漁村活性化部門	6次産業化、食育、直売活動、耕作放棄地活用、グリーン・ツーリズム等、地域を活性化する活動を行っている法人、集落、集団等

2 令和6年度ふるさと秋田農林水産大賞受賞者

【産地部門】

受賞区分	名 称	所在地	品 目	取 組 概 要
大 賞	北秋田・大館 地域にんにく 生産振興協議会	北秋田市 大館市	にんにく	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「北秋田・大館地域にんにく生産振興協議会」は、平成29年に設立され、現在は7経営体で組織されている。 ○ 協議会独自の栽培基準「あきたしらかみにんにく土づくり5箇条」を定めることで、大玉で糖度の高い高品質なにんにくの生産体制を確立。 ○ また、イモグサレセンチュウの侵入を防止するため、土壌のPCR検査を行い、センチュウが確認された土壌では種球を栽培しないなど徹底した対策を講じている。 ○ 独自の出荷規格を設け、「使いきりバラにんにく」など顧客ニーズを取り入れた商品づくりに取り組んでいるほか、加工品の製造・販売も行い、収益向上を図っている。

【担い手部門】

～経営体の部～

受賞区分	名 称	所在地	品 目	取 組 概 要
農林水産 大臣賞 ・ 大 賞	農事組合法人 小出ファーム	にかほ市	水稻 大豆 馬鈴薯 アスパラガス タラの芽	<ul style="list-style-type: none"> ○ 畑地区のほ場整備を契機として、平成28年に「農事組合法人小出ファーム」を設立。大規模園芸拠点整備事業を活用し、半促成アスパラガスやタラの芽、馬鈴薯などの複合経営に転換した。 ○ 水稻については、移植栽培と不耕起V溝乾田直播栽培の組み合わせにより、作業時期を分散させ、限られた労働力と農業機械で適期管理に努めている。 ○ 半促成アスパラガスについては、トヨタ式改善手法を導入して、作業の効率化を図るとともに、選別機の導入や品質管理により、単収が2t/10aを超えるなど、販売額は右肩上がりとなっている。 ○ 働きやすい労働環境を整備することで、安定した雇用が確保され、売上は雇用労賃として地域に還元されている。また、冬期間、タラの芽の栽培を行うなど、年間を通じた収入源の確保に努めている。

【担い手部門】
～経営体の部～

受賞区分	名 称	所在地	品 目	取 組 概 要
大 賞	沼沢 淳	横手市	りんご そば 水稻	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高校卒業後に就農し、りんご栽培をはじめ生産性が高いわい化栽培に着目し生産拡大を続けてきた。平成26年には、耐雪性に優れたセンターポール方式による栽培体系を確立し、豪雪地帯に向かないとされたわい化栽培技術の普及を図ってきた。 ○ 探求心は、栽培技術だけでなく、りんごのマーケティングにも及び、端境期に出荷する「ゆめあかり」は、生産量と品質が認められ都内百貨店において指名買いされるなどブランドとして確立されている。 ○ 剪定の技術指導等を通じて、新しい栽培方法や技術を出し惜しみすることなく若手生産者へ伝えるなど、産地において先駆的な役割を果たしている。

【担い手部門】
～未来を切り拓く新規就農の部～

受賞区分	名 称	所在地	品 目	取 組 概 要
大 賞	島 知範	能代市	ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成30年に千葉県から能代市へ移住し、轟ネオファームで農業研修を開始。ねぎ専作農家として、就農後夢ある園芸産地創造プラン支援事業を活用し、6.3haまで規模拡大した結果、5年目にして販売額8千万円を達成。JAあきた白神農畜産物生産者大会で最優秀賞を受賞した。 ○ 栽培マニュアルの遵守、排水対策の励行や土壌分析に基づく改良資材の施用など、基本技術を徹底した結果、令和5年7月の大雨や8月の猛暑を乗り越え、平年並みの単収を確保するなど結果を残している。 ○ 高校生の営農体験や新規就農者の視察受け入れ等、農外からの新規参入者のモデルとして、就農促進のための活動にも積極的に取り組んでいる。

【農山漁村活性化部門】

受賞区分	名 称	所在地	取 組 概 要
農林水産 大臣賞 ・ 大 賞	大沢郷三地区結々会	大仙市	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和元年、大沢郷地区の賑わいを取り戻す事を目的に地域内で活動していた11組織が集まり、「大沢郷三地区結々会」を設立。 ○ 農用地や周辺施設の点検等の多面的活動を行い、地域資源の保全や農村景観の維持につながっている。 ○ 地域資源である雄清水や雌清水は、わさびやレンコン栽培、小水力発電にも活用するなど、地域のシンボルとなっている。 ○ 約30年間続けている県内外の中学生や大学生を対象とした農作業体験は、地域と地域外の人がつながるきっかけをつくった。 ○ こうした活動が、約20年間途絶えていた椒沢番楽を復活させるなど地域活性化に寄与し、関係人口の創出や若者の会の結成につながるなど成果が着実に現れている。

3 受賞者の業績



ど り よ く
「土力品質」にこだわった
にんにく産地づくり

北秋田・大館地域
にんにく生産振興協議会

秋田県北秋田市・大館市

1 産地発展の経過

●平成23年

北秋田市で建設業を営む小林氏が、増え続ける耕作放棄地に歯止めをかけ、農地へ復旧させたいとの思いから、北秋田市内の建設業者3社で「(株)しらかみファーマーズ」を設立し、農業に本格参入した。

●平成29年

北秋田地域のにんにくの生産拡大と品質向上を図るため、(株)しらかみファーマーズ、えつりファーム(株)、(農)樹海ドーム北ファームで構成する「北秋田・大館地域にんにく生産振興協議会」を設立。統一した基準により、生産したにんにくを『あきたしらかみにんにく』のブランドで出荷・販売を開始した。

●平成30年

にんにく生産の裾野拡大と品質向上を目的として「秋田県にんにく生産者協議会」を設立し、北秋田・大館地域にんにく生産振興協議会が生産した種球を全県の会員へ供給する体制を構築した。

メガ団地等大規模園芸拠点整備事業等を活用し、集出荷施設の整備や作業機械を導入し、21.2haまで作付面積を拡大した。



【先進地視察研修（青森県七戸町）】

2 活動内容

(1) 県産にんにくの産地化を目指した活動

青森県への先進地視察研修をはじめ、年2～3回程度、全県の生産者を対象とした栽培講習会を開催している。北秋田地域に留まらず、全県のにんにく栽培技術の底上げを図っている。

(2) 認知度向上・販路拡大に向けた活動

「本場大館きりたんぼまつり」などのイベントに出展するだけでなく、県と共催し、「あきたしらかみにんにくフェア」などイベントを企画し、「あきたしらかみにんにく」の認知度向上に努めている。

また、丸果秋田県青果(株)と連携し、県内外の量販店や小売店での取扱いを拡大するとともに、協議会が主体となり、県内外の商談会に出展するなどして商品を売り込み、販路拡大を図っている。

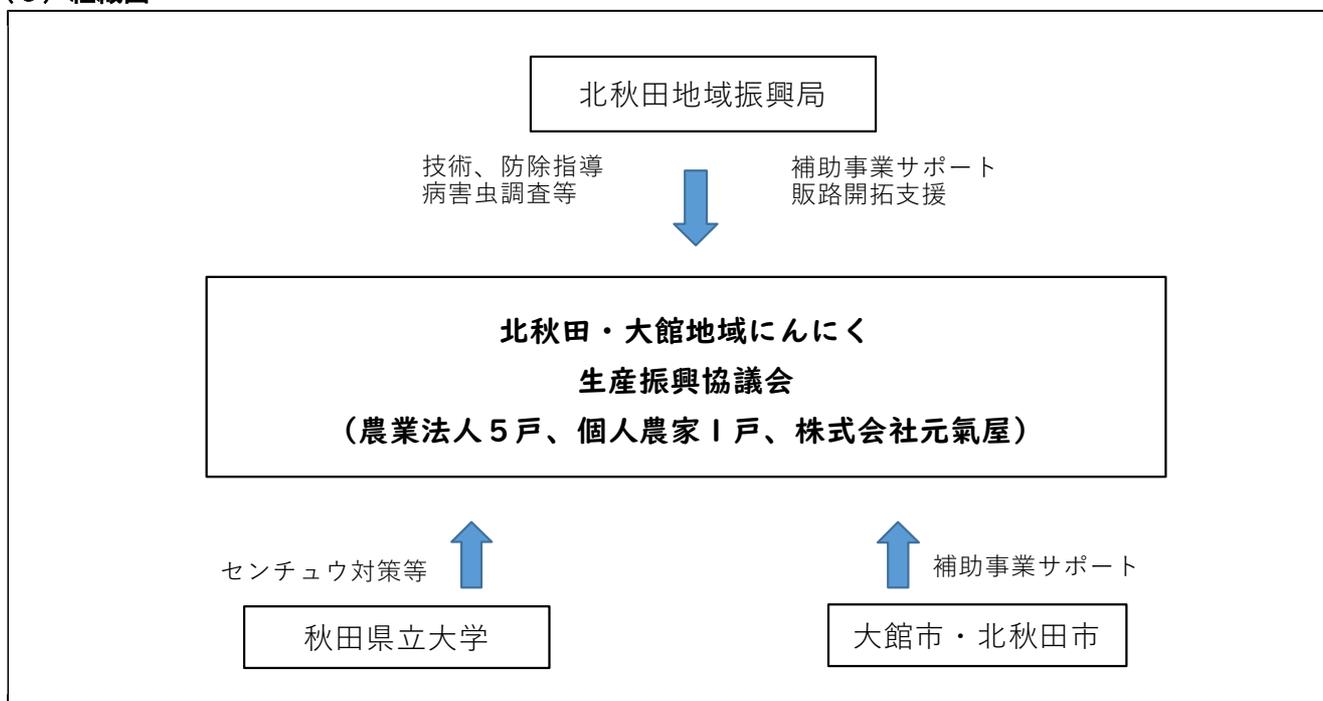
(3) 販売額等の推移

項目	単位	R 2	R 3	R 4	R 5
協議会の構成員数	組織	5	6	6	6
農業経営体数	経営体	4	5	5	5
1 経営体当たり面積	ha	8.3	7.8	8.5	8.5
全体作付面積	ha	33.1	38.8	42.5	42.3
10 a 当たり収量	kg	269	250	205	175
生産量	トン	89	97	87	74
出荷量	トン	89	97	87	74
平均単価	円/kg	1,259	1,225	1,183	1,175
販売額	千円	107,469	118,449	105,111	87,985

(4) 作型体系図

作目名	面積 規模	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	出荷量	備考
にんにく	42.3ha						□	□	▲	▲	◎	◎		74t	◎：定植 □：収穫 ▲：乾燥

(5) 組織図



3 消費者ニーズに対応した取組

(1) 独自の出荷規格や商品化

独自の出荷規格を設け、一般消費者が手に取りやすいような「使い切りバラにんにく」として関東に出荷するなど、顧客ニーズを取り入れた商品規格の開発に取り組んでいる。

(株)元氣屋では、「乾燥にんにくチップ」や「おろしにんにく」、「焼肉のたれ」など加工品の製造・販売に取り組み、新たな収益化を実現している。

4 技術紹介

(1) 「土力品質」にこだわった環境にやさしい生産体制

協議会は、独自の栽培基準「あきたしらかみにんにく土づくり5箇条」を定め、土づくりにこだわった栽培に取り組んでいる。

十和田石や牛ふん堆肥など地域資源の活用を義務化し、他産地との差別化を図っているほか、にんにく栽培に適した北秋田地域の環境とこだわりの土づくりにより、大玉で糖度の高い高品質な『あきたしらかみにんにく』の生産を実現している。

あきたしらかみにんにく 土づくり5箇条

●この5つを守り生産に取り組んでいます。

- ☑ 地元の有機堆肥を使用します
- ☑ 地元の微生物活性資材「十和田石」を使用します
- ☑ 緑肥による有機物補給を行います
- ☑ 土壌微生物をPCR検定し、安全性を確認します
- ☑ 土壌消毒剤は使用しません

(2) 大学と連携したセンチウ対策の実施

次年度の種場となるほ場から土壌をサンプリングし、秋田県立大学バイオテクノロジーセンターでPCR検査を行い、センチウが確認された際には種場の生産ほ場を変更するなど対策を講じている。

(3) 生産技術向上の促進

にんにく栽培の基礎技術の向上を目的として、土づくりや病害虫管理、出荷調製作業など主要作業を細分化した栽培マニュアルを作成している。

また、にんにく栽培の生命線である種球の安定生産に向け、供給元の住化テクノサービス(株)と連携し、種球増殖や採種に関する講習会を定期的開催するなど、生産者の技術向上、協議会会員の肥培管理や病害等の課題解決につなげている。



【種球供給メーカーと連携した巡回指導】

5 その他特記事項

(1) あきたしらかみにんにく出荷開始式

11月の市場出荷開始時期には、初競りに合わせて出荷開始式を開催するとともに、にんにく料理試食会等の関連イベントにより、『あきたしらかみにんにく』をPRしている。



【秋田地方公設卸売市場での初競り】

(2) あきたしらかみにんにくメニューフェアの実施

知名度向上と消費拡大を目的に、「ホルモン幸楽」をはじめとする県北・県央12店舗の飲食店と連携し、「あきたしらかみにんにくメニューフェア」を初開催した。

フェアを通して認知度向上を図るとともに消費者ニーズの把握に努めている。

“あきたしらかみにんにく”パワーで
寒い秋田の冬を乗り切ろう！

あきたしらかみにんにく メニューフェア

開催期間 令和6年 12.3 (火) ▶ 令和7年 1.31 (金)

にんにく好きにはたまらない！
北秋田地域の特産にんにくを使用した冬季限定メニューを県北・県央地域の飲食店12店舗で提供します！

あきたしらかみにんにくとは？
北秋田・大館地域にんにく生産振興協議会が生産するにんにくです。
“主力品質”を合言葉に一歩品質上げりに取り組み、甘みや旨味豊かなにんにくに仕上げます。

※店舗や在庫状況により、フェア期間が前後する場合があります。

（メニューフェア協力店）

（秋田県市：5店舗）	（大館市：2店舗）
らめん元氣屋 豊原店	ホルモン幸楽 大館店
中華料理 333 Pivo2	らめん元氣屋 大館店
元氣通商ベコちゃん 湯沢店	
成風 DoDo	（雄物山：1店舗）
産直屋 ちゅん	ホルモン幸楽 花輪店
（県北・県央地域：4店舗）	
らめん元氣屋（秋代店、秋田アルヴェ店、奥津田）	
元氣通商ベコちゃん（湯上店）	

企画 北秋田・大館地域にんにく生産振興協議会
秋田県北秋田地域振興局農林部農業振興普及課
お問い合わせ先 ☎ 0186-62-1835

【R 6版あきたしらかみにんにくメニューフェアチラシ】



大規模なアスパラガス半促成栽培で “地域と共に歩む”

農事組合法人小出ファーム

秋田県にかほ市

1 経営発展の経過

●平成18年

生産コストの低減により、農業経営の安定化を図るため、平成18年12月に水稲と大豆の共同作業を行う畑営農組合（構成員28名）を組織した。

●平成25年

畑地区では未整備ほ場が多く作業効率が悪かったことから、「畑地区土地改良基盤整備事業推進会議」を設立し、農地集約と担い手の規模拡大を進めることとした。

●平成28年

畑地区のほ場整備を契機に、地域の農業経営と農地の保管理を目的として、農事組合法人小出ファーム（構成員17名）を設立した。

●令和元年

複合経営を目指し、メガ団地等大規模園芸拠点整備事業を活用し、半促成アスパラガスやタラの芽、馬鈴薯を導入した。

農薬散布は、自社ドローンを2台所有しており、人手不足を補うとともに委託料の低減を図っている。

（2）園芸メガ団地を契機とした複合経営

半促成アスパラガス、タラの芽、馬鈴薯などに取り組み、収益確保と雇用の創出につなげている。

また、各部門にリーダーを配置し、適期作業や構成員の労務管理を行うことにより、作業体系の効率化を図っている。特にアスパラガスは、地域の模範となる高品質・安定生産を実現している。

（3）年間を通じた収入確保と地域雇用

軽量野菜であるアスパラガスの特長を生かし高齢者を臨時雇用しているほか、冬期間の収入確保のためにタラの芽を生産し、品目ごとの特性に合わせて地域内の労働力を有効活用している。

現在は、新たな収入源として、啓翁桜の株養成に取り組みはじめた。



【冬期間の収入確保のためのタラの芽】

2 経営内容

（1）水稲と大豆を組み合わせた効率的な水田農業

経営面積91.7haのうち、水稲(59.7ha)・大豆(28.9ha)が97%を占めており、法人経営の主要作目となっている。

水稲部門では、移植栽培と不耕起V溝乾田直播栽培を組み合わせ、作業時期を分散することにより、限られた労働力と農業機械で適期管理に努めている。

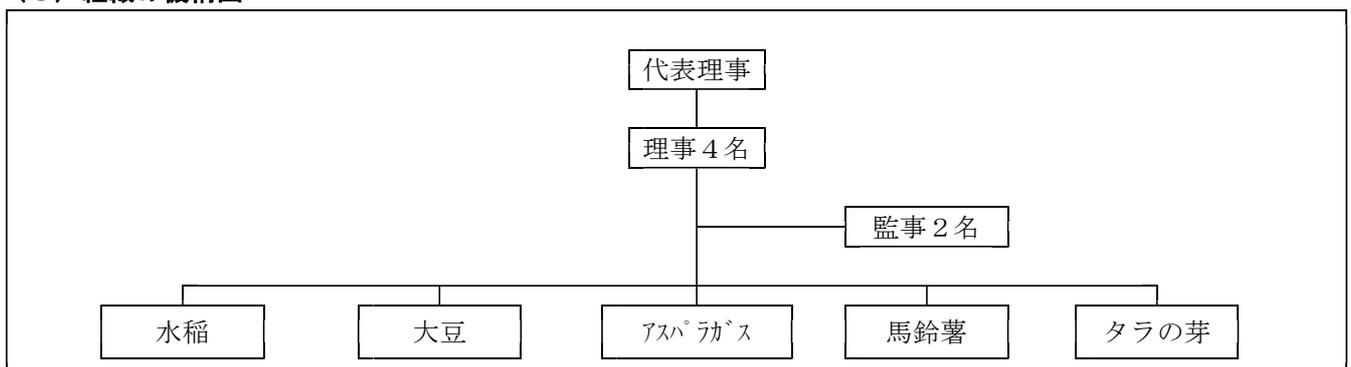
(4) 経営の現状

主な作目と規模	戦略作物				水稻		
	大豆	アスパラガス	タラの芽	馬鈴薯			
	28.9ha	0.8ha	0.6ha	1.7ha	59.7ha		
労働力の状況	構成員数	常時従事者数	常時雇用者	臨時雇用者			
	18名	7名	0名	27名			
経営の現状 主な農機具及び施設	種類	台数	導入年度	規模・性能	利用した補助事業		
	パイプハウス	24棟	R1, R2	108坪	産地パワーアップ事業		
	防除機	2	R1	200W/24V	〃		
	アスパラ選別機	2	R2	250W/100V	〃		
	トラクター	4	H30, R1 R1, R6	54PS 2台 57PS 2台	メガ団地等大規模園芸拠点整備事業(1台)		
	野菜集出荷調製施設	1棟	R1	66坪	〃		
	パイプハウス(タラの芽)	1棟	R2	30坪	〃		
	予冷库	2	R2	11436L	〃		
	コンバイン	2	R1 R3	6条刈り 115PS	強い農業担い手づくり総合支援事業		
	不耕起V溝直播機	1	R2	10条	低コスト技術等導入支援事業		
	大豆培土機	2	R1, R2		元気な中山間農業応援事業		
	大豆コンバイン	1	R2	45PS	〃		
	田植機	2	R2, R4	8条植え			
	ドローン	2	R3, R5	-			
経営規模拡大の概要	作目	単位	R元	R2	R3	R4	R5
	水稻	ha	54.9	63.9	73.4	61.2	59.7
	大豆	ha	12.0	24.2	9.3	30.4	28.9
	アスパラガス	ha	0.3	0.8	0.8	0.8	0.8
	タラの芽	ha	0.0	0.3	0.3	0.6	0.6
	馬鈴薯	ha	0.0	0.9	1.9	0.0	1.7

(5) 作目体系図

作目名	面積規模	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	生産量 又は 出荷量	備考
水稻	59.7ha				○	◎				◇	◇			277 t	○：播種・ 植付け
大豆	28.9ha						○				◇	◇		31 t	◎：定植
アスパラ	0.8ha			◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇				17 t	◇：収穫
タラの芽	0.6ha	◇	◇											84kg	
馬鈴薯	1.7ha				○			◇						10 t	

(6) 組織の機構図



3 消費者や実需者等ニーズ に対応した取組

(1) 高品質なアスパラガスの出荷

自社で選別機を導入し、品質チェック（粗選別）してからJA共同選果場へ出荷している。

さらに、病虫害防除や整枝管理、適期の除草作業などにより、ほ場内の衛生管理を徹底することで、高単収・長期安定出荷を実現している。



【アスパラガス選別作業】

(2) 親子アスパラガス収穫体験会

アスパラガス栽培の取組の周知や地域住民との交流を目的とした「親子アスパラガス収穫体験会」を令和6年9月に初開催したところ、6家族17名が参加し、好評を得た。

4 技術紹介

(1) 水稲直播栽培導入による作業時期の分散

不耕起V溝乾田直播栽培を取り入れ、耕起や育苗などの春作業の労力を軽減しているほか、作業時期の分散により、労働力の最適化を図っている。

これにより、周辺地域の農家から水田を引き受けることが可能となり、直播栽培面積は20ha（令和6年）まで拡大し、今後も拡大する見込みである。



【不耕起V溝乾田直播作業】

(2) 大規模なアスパラガス半促成栽培

温暖で雪解けが早い気候条件を生かし、軽量で地域の労働力を生かせる品目としてアスパラガスを選択した。また、露地栽培と比べ、単収が高く、雨天時でも収穫作業が容易であるハウス半促成栽培に取り組んでいる。

メガ団地等大規模園芸拠点整備事業により2か年に渡ってビニールハウス24棟を整備し、令和元年には8棟、令和2年には16棟に定植した。

令和3年度からは全棟（栽培面積0.8ha）で収穫が始まり、ハウス半促成栽培では県内一の大規模栽培となっている。

(3) アスパラガスの高単収安定生産

農薬散布は無人防除機を活用し、大幅な省力化を実現している。

収穫と粗選別はトヨタ式カイゼン手法を用いて、作業体系を標準化しているほか、収穫作業と粗選別作業を分けて行うことで効率化を図るなど、作業体系の改善に取り組んでいる。

取り組みの結果により、0.8haの大規模栽培でありながら、単収は2t/10a（管内平均の約1.6倍）を超え、販売額は年々増加している。



【作業効率を考慮したアスパラガスの収穫作業】

5 その他特記事項

(1) 働きやすい労働環境

アスパラガスの収穫作業には、1日8名程が従事しており、地域の高齢者が大半を占めている。このため、高温のハウス内での作業を避け、休憩時間を多く確保するなど工夫している。

また、収穫作業が地域住民の交流の活発化に寄与しているほか、売上額を雇用労賃として還元できており、地域住民のやりがいに繋がっている。

(2) 農福連携の取組

令和3年から地元の福祉施設利用者を受け入れている。アスパラガスの収穫や大豆の除草作業など年5回程度従事することで、就業や社会復帰へのきっかけとなっている。

(3) 地域農業の未来に向けた取組

親子収穫体験の開催やInstagramによるPRなど法人活動の発信に努めている。

また、従業員や後継者を持続的に確保するため、構成員への労賃を従事分量配当制から確定給与制への移行を検討している。



多雪地帯で進取果敢に りんごのわい化栽培に挑戦

沼 沢 淳

秋田県横手市

1 経営発展の経過

●昭和51年

高校卒業後、就農し、りんご栽培を始める。

●昭和57年

自家生産したマルバ付きM.26台のりんごの苗木を、水田転換地に30a新植し、わい化栽培を開始する。

●昭和60年～平成19年

地元で発見された「ふじ」の早生系や着色系の枝変わり品種に注目し、わい化栽培の規模拡大を図る。

水田40aと樹園地75aを取得する一方、山手の樹園地35aを廃園する。

●平成23年

生産者仲間と「ゆめあかり栽培研究会」を設立し、県オリジナル品種「ゆめあかり」の1-MCP処理による長期冷蔵技術を実証する。これにより、「夏出しりんご」として、端境期となる4月から8月までの出荷が可能となる。

●平成26年以降

平成23年の豪雪で甚大な雪害を受けたわい性台樹を、耐雪型樹形へ改植するも、令和2年に再び雪害に見舞われ、より耐雪性が高いセンターポール方式へと改良を図る。

わい化栽培の規模を年々拡大し、令和6年には170aとなる。

2 経営内容

りんご270a(平鹿管内の平均経営規模の4.6倍)、水稲40a、そば40aの複合経営に取り組んでいる。

経営面積に占めるわい化率は、管内平均の21.8%を大きく上回る62.9%となっており、生産性と作業性の向上に貢献している。

夫妻2人と臨時雇用者4名で営農しており、作業台車やフォークリフトなどを利用し、省力化を図っている。



【生産性が高いわい化栽培】

【経営規模別農家数(JA秋田ふるさと管内)】

	栽培面積(a)				
	～50	51～100	101～150	151～200	201～
農家戸数	457	187	78	41	15
割合(%)	58.7	24.0	10.0	5.3	1.9

(2) 経営の現状

経営の現状	主な作目と規模	戦略作物					水稻																																				
		りんご	そば				40 a																																				
	270a	40a																																									
労働力の状況	構成員数	常時従事者数	常時雇用者(延べ)	臨時雇用者(延べ)																																							
	2名	2名	—	4名																																							
主な農機具及び施設	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>台数</th> <th>導入年度</th> <th>規模・性能</th> <th>利用した補助事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スピードスプレーヤー</td> <td>1</td> <td>H10</td> <td>1,000ℓ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>作業台車</td> <td>2</td> <td>H18・R3</td> <td>6.3ps</td> <td></td> </tr> <tr> <td>乗用草刈り機</td> <td>2</td> <td>H21・25</td> <td>25ps</td> <td>夢プラン事業 (H21)</td> </tr> <tr> <td>自走草刈りロボット</td> <td>1</td> <td>R5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>フォークリフト</td> <td>1</td> <td>H30</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>冷蔵庫</td> <td>2</td> <td>H24・28</td> <td></td> <td>夢プラン事業</td> </tr> </tbody> </table>								種類	台数	導入年度	規模・性能	利用した補助事業	スピードスプレーヤー	1	H10	1,000ℓ		作業台車	2	H18・R3	6.3ps		乗用草刈り機	2	H21・25	25ps	夢プラン事業 (H21)	自走草刈りロボット	1	R5			フォークリフト	1	H30			冷蔵庫	2	H24・28		夢プラン事業
	種類	台数	導入年度	規模・性能	利用した補助事業																																						
	スピードスプレーヤー	1	H10	1,000ℓ																																							
	作業台車	2	H18・R3	6.3ps																																							
	乗用草刈り機	2	H21・25	25ps	夢プラン事業 (H21)																																						
	自走草刈りロボット	1	R5																																								
	フォークリフト	1	H30																																								
冷蔵庫	2	H24・28		夢プラン事業																																							
経営規模拡大の概要	作目	単位	S51	H1	H15	R2	R6																																				
	りんご	a	70	160	230	260	270																																				
	そば	a	—	—	—	40	40																																				
	水稻	a	190	100	80	40	40																																				

(3) 作目体系図

作目名	面積規模	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	生産量 又は 出荷量	備考
りんご	270a	整枝・剪定		病虫害防除・草刈り				着色管理				60.4t			
				受粉	夏期枝管理		収穫・出荷								
				摘花・果	越冬対策										
そば	40a	耕起・整地・播種				収穫				乾燥・調整・出荷				0.48t	
水稻	40a	耕起・代かき				田植え				水管理				2.16t	
					草刈り				収穫・乾燥調整						

3 消費者や実需者等ニーズ に対応した取組

(1) 市場性が高い品種への更新

取引先を通じて、消費者ニーズの把握に努めており、市場で人気の品種は、苗木を自家生産している。短期間で生産量が上がるよう、花芽が着いた大苗を定植するなど、早期成園化を図っている。



【自家生産している苗木】

(2) 「夏出しりんご“ゆめあかり”」の出荷販売

端境期に出荷する「ゆめあかり」は、都内百貨店で「夏出しりんご」として指名買いされている。

自ら会長を務める「ゆめあかり栽培研究会」では、安定して出荷するために長期貯蔵に適した収穫時期の把握や冷蔵施設の改修により、生産量と品質向上を図っている。



【都内百貨店での販促活動】

(3) 地元スーパーと直接取引

販売面では、JAへの出荷のほか、地元スーパーと直接取引し、中生種や贈答品種の販路を拡大している。

また、「ゆめあかり」に加え、長期冷蔵に向く品種の研究を重ね、「シナノスイート」など4品種の販売に成功し、4月までの長期販売を可能とした。

4 技術紹介

これまで、りんごのわい化栽培は、雪害を受けやすく、多雪地帯には向かないと考えられてきたが、雪害対策を講じたわい化栽培を拡大してきた。

(1) 多雪地帯に適したわい性台木の選抜

コンパクトで雪害に強い樹形に仕立てるため、様々なわい性台木を導入し、耐雪性や耐凍性を考慮すると、マルバ付きM.26台が最も安定して生産できることを突き止めた。



【マルバ付きM.26台の細型紡錘形樹】

(2) 耐雪型樹形の開発

現在は、耐雪性と生産性を両立させた「細型紡錘形樹」や耐雪性を付与した「開心型形樹」の開発に取り組んでいる。



【下枝が斜立した耐雪型開心形樹】



【せん定講習会】

（3）枝折れを防止するセンターポール方式の実証

これまでにトレリス方式や朝日ロンパス方式などを取り入れ、雪害対策を講じてきたが、豪雪に見舞われた際に、枝折れが発生した。

その後、試行錯誤の結果、側枝をワイヤーで吊り上げるセンターポール方式への改良に成功し、耐雪性を飛躍的に向上させた。

（2）温暖化への対応

近年は温暖化の影響で、りんごの品質が変化し、特に赤色の品種では高品質な果実を作るのが難しくなっている。

今後りんごにこだわり生産を続けて行くために、高温に強い品種の栽培方法や生産体系について、模索し始めている。



【センターポール方式】

5 その他特記事項

（1）地域への貢献

長年にわたり、剪定の技術指導を行い、後進の育成に努めている。また、新しい栽培方法や技術は、地域内外から注目を集めているほか、りんご栽培にかける情熱や進取果敢に挑戦する姿は、若手生産者の模範となっている。



農村に憧れて移住、 ねぎ栽培に取り組む

島 知 範

秋田県能代市

1 経営発展の経過

●平成30年

27歳（移住する10年前）の時に妻の実家がある能代市を訪れた際、秋の田んぼの風景に感動したことをきっかけに、能代市で農業に従事することを決意し、千葉県から能代市に移住した。

当初、稲作をメインに就農するつもりであったが、相談先の能代市から、農業で自立をするなら「ねぎ」と勧められ、ねぎ専作農家を目指すこととした。そこで、技術習得のため園芸メガ団地事業を実施した（農）轟ネオファームにて農業研修を開始した。

●令和2年

能代市竹生で就農し、ねぎ栽培(2.0ha)を開始した。

●令和4～5年

夢ある園芸産地創造プラン支援事業（園芸メガ団地）を活用し、ねぎ栽培の規模拡大に取り組み、6.3haまで拡大している。

2 経営内容

（1）規模拡大への歩み

1年半の研修の後、令和2年度から能代市竹生地区のほ場2.0haにおいてねぎ栽培を開始した。

令和4年度には、夢ある園芸産地創造プラン支援事業（メガ団地）を活用し、大規模経営に取り組むようになった。

令和5年度にも規模拡大を行い、作付面積6.3haで販売額8千万円を達成した。

（2）規模拡大に当たっての対応

就農当初は、農業委員から農地を斡旋してもらっていたが、規模拡大するにつれて、畑地を中心に個人から農地を引き受けるようになった。

これに伴い、労働力を確保するため、ハローワークに加え、従業員からの紹介などにより、新たな労働力を確保するようになった。

従業員が離職しないよう、労災や失業保険に加入するなど、雇用環境を整えている。

3 消費者や実需者等ニーズ に対応した取組

（1）安全安心な生産物、高品質な生産物

消費者に安全・安心なねぎを供給するため、農薬の使用基準の遵守はもとより、生産履歴の記録管理を行っている。

土壌分析に基づき、堆肥や土壌改良材を投入するなど土づくりにこだわり、高品質で安定した収量が確保できるよう努力をしている。

（2）販売先の拡大に向けて

インターネットによる販売や、安定した取引をしてくれる実需者への直接販売等、販路の拡大に向け、「販売力ステップアップ支援事業」を活用し、商談等のノウハウ習得に励んでいる。

(3) 経営の現状

経営の現状	主な作目と規模	戦略作物					水稻	
		ねぎ						
労働力の状況	構成員数	常時従事者数	常時雇用者	臨時雇用者				
		16名	2名	4名	10名			
経営の現状	主な農機具及び施設	種類	台数	導入年度	規模・性能	利用した補助事業等		
		集出荷施設	1	R 4	178m ²	夢ある園芸産地創造事業		
		格納庫	2	R 2・4	162m ² ×2	夢ある園芸産地創造事業		
		パイプハウス	4	R 2～4	233m ² ×4	夢ある園芸産地創造事業		
		トラクター	2	R 2・4	34ps・47ps	夢ある園芸産地創造事業 産地生産基盤 ^ハ ワーアップ [°] 事業		
		ソフィ(収穫機)	2	R 2・4	1条	夢ある園芸産地創造事業 産地生産基盤 ^ハ ワーアップ [°] 事業		
		乗用管理機	1	R 4	26ps	産地生産基盤 ^ハ ワーアップ [°] 事業		
		ブームスプレイヤー	1	R 2	500 ^{リットル}	夢ある園芸産地創造事業		
		ベストロボ(根葉切り)	3	R 2・4	R2×1、R4×2	夢ある園芸産地創造事業 産地生産基盤 ^ハ ワーアップ [°] 事業		
		軽トラック	5	R 2～5	4WD			
		2tトラック	1	R 2	4WD			
		経営規模拡大の概要	作目	単位	R 2	R 3	R 4	R 5
ねぎ	ha		2.0	3.0	4.5	6.3		

(4) 作目体系図

作目名	面積規模	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	生産量 又は 出荷量	備考
越冬育苗	0.8ha			◎				□				○		158 t	○: 播種 ◎: 定植 □: 収穫
夏ねぎ	2.0ha	○		◎					□						
秋冬ねぎ	3.0ha			○		◎					□				
囲いねぎ	0.5ha	□			○		◎						□		



【集出荷施設】



【ねぎの収穫作業】

4 技術紹介

(1) 基本に忠実な栽培管理

高品質かつ安定供給のため、栽培マニュアルに記載の基本技術の励行に努め、作業の進捗管理をしている。

また、先輩農家と積極的に情報交換を行い、互いの技術力を高め合っている。

特に、土づくりと病害虫の予防対策に力を入れており、排水対策の励行や土壌分析結果に基づき土壌改良資材等を施用しているほか、振興局や市、JAが発信する病害虫対策情報に基づき、予防を徹底している。

成果として、令和5年7月の大雨や8月の猛暑により、地域内でねぎの茎部褐変症状（病害）が多発したが、島氏のほ場では、病害の発生を最小限に抑えることができ、平年並みの単収を確保することができた。

(2) 大規模経営の実践

令和4年度から、夢ある園芸産地創造プラン支援事業（メガ団地）を活用し、令和5年度は6.3haで栽培を行い、販売額8千万円を達成した。

大規模経営を実践するためには、従業員の自立が重要であることから、常時雇用としている4名について、島氏が不在でも円滑に作業できるよう、責任を持たせるようにしている。

その結果、常時雇用の従業員は、自分が任されているという自負から、創意工夫しながら作業を行っている。現在は、皮むきや箱詰め作業を従業員に全て任せ、島氏自身はほ場管理や経営管理に専念している。

また、大規模経営を行うためには、収穫期間の長期化が必要であることから、収穫時期を前進するため、越冬育苗7月どりを取り入れている。

5 その他特記事項

(1) 農外からの新規参入者としてのモデル

島氏は、農外からの新規参入者のモデルとして、西目高校の生徒や管内の若手農業者の視察を受け入れるなど、就農促進に向けた啓蒙活動に積極的に取り組んでいる。

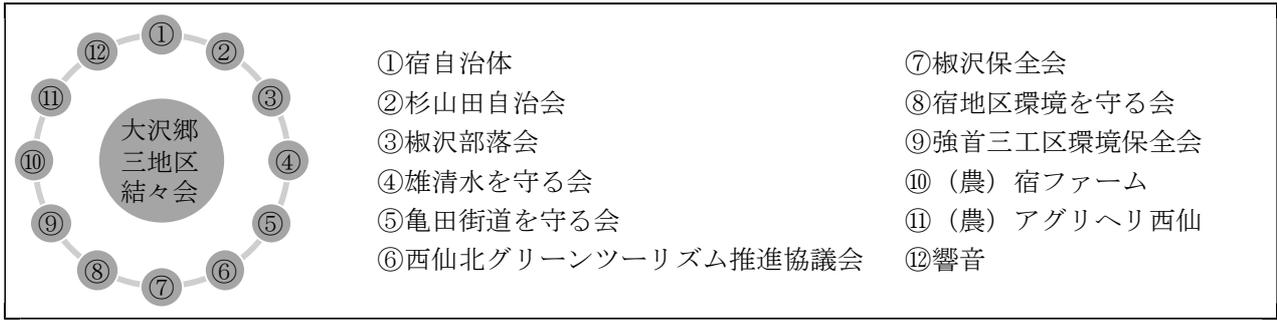


【西目高校の生徒を受け入れ】

(2) JAあきた白神農畜産物生産者大会にて最優秀賞を受賞

販売額8千万円が評価され、令和5年度JAあきた白神農畜産物生産者大会で、新規就農者でありながら最優秀賞（能代市長賞）を受賞している。

【組織体系図】



3 地域の特産を生かした取組

(1) 雄清水・雌清水の活用

大沢郷宿では雄清水・雌清水と呼ばれる湧水がある。雄清水・雌清水は毎分約500Lで湧いており、地区内外から多くの人が水を求めて訪れている。

湧水は、わさびやレンコン栽培、日本酒やクラフトビールの仕込み水に活用されている。

雄清水には令和元年に小水力発電を備えた水車を設置し、生み出された電力は平時の夜間照明や災害時には、非常用電源として利用されている。



【小水力発電を備えた水車】



【雄清水】



【収穫後のわさび】

(2) 農作業体験と活動拠点整備

体験農園では、田植えと稲刈りをはじめとした農作業体験を受け入れているほか、希望に応じて牛の管理も体験できる。

農作業体験時に参加者と地域住民が交流できるよう、農園エリア内に山小屋を整備し、グリーンツーリズムの活動拠点としている。

約30年前から毎年続けている県外の中学校等からの受け入れだけでなく、一般向けの農作業体験をはじめとするグリーンツーリズムの取組には、秋田国際教養大学の学生も参加するなど、幅広い年代が交わることで、大沢郷地区を拠点に多様な交流が生まれている。



【山小屋での交流】



【稲刈り体験】



【椒沢番楽】

（3）地域の保全活動

大沢郷三地区結々会による保全活動は、農業者だけでなく、非農業者も巻き込んだ地域ぐるみで取り組んでいる。

春は農地と周辺施設の点検から始まり、畦畔の草刈りや農道の砂利敷き、水路補修などの維持修繕に加え、防災面では、降雨の際、東ノ沢ため池等の見回りを行っているほか、防災パトロールも適時行っている。



【公園の保全活動】

（4）椒沢番楽の保存継承

無病息災、厄除けを祈願する椒沢番楽は、約20年間途絶えていたが、グリーンツーリズムの参加者等に参加してもらったほか、女性や地域外の住民も参加可能とするなど環境づくりが実り、令和3年に復活を果たした。

番楽を通じて、地域に活気が生まれ、和気藹々とした雰囲気の中で活動が進められている。



【椒沢番楽の練習風景】

4 地域農業、地域社会に及ぼした影響

（1）関係人口の創出

移住体験ツアーを開催し、たまねぎの収穫体験や意見交換会を行い、交流を深めた結果、県外から2名が秋田市に移住し、休暇を利用して地域の活動に参加している。



【移住体験ツアーでの交流会】

（2）地域内外の若者の活躍

結々会の活動から、20代から40代で構成する若者の会「響音」が生まれた。響音が中心となり年3回程度、祭やイベントを開催している。祭では、椒沢番楽が披露されるなど盛り上がりを見せている。

「響音」は、外部への情報発信など地域の広域的な役割を果たし、若者を中心とした集客につながっている。

（3）住民意識の変化

地区に暮らす一人ひとりがむらづくりに関わっていくことが重要であると住民の意識も変化し、キャッチフレーズ「おらだのまち元気」が生まれた。

5 その他特記事項

(1) 守りたい秋田の里地里山50

令和元年度に椒沢地区が「守りたい秋田の里地里山50」として認定されている。



【椒沢地区の風景】

令和6年度ふるさと秋田農林水産大賞審査委員会
委員名簿

区分	所属	職名	氏名	備考
審査委員長	秋田県農林水産部	部長	齋藤正和	県
審査委員	秋田県立大学生物資源科学部	教授	岡田直樹	学識経験者
〃	秋田県農業協同組合中央会	営農農政部長	斉藤恭史	農業関係団体
〃	秋田県土地改良事業団体連合会	専務理事	舩谷雅広	農業関係団体
〃	秋田県農林水産部	農林政策課長	本郷正史	県

令和7年3月 発行

令和6年度ふるさと秋田農林水産大賞
受賞者の業績

編集・発行 秋田県農林水産部農林政策課
〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号
(秋田県庁本庁舎4階)

TEL 018-860-1723

FAX 018-860-3842